

## 野菜需給協議会幹事会概要

1. 日時 平成21年8月11日（火） 16:00～17:00
2. 場所 農畜産業振興機構南館1階会議室
3. 概要

（冒頭）座長より挨拶

- ・本日は、野菜需給協議会の規約に基づいて、緊急時の対応として幹事会を開催する。
- ・7月以降の天候不順等に伴い、野菜の生育に影響が生じ、全般的に野菜の価格が高めで推移しており、また、これに関する報道も頻繁になされているものと承知している。
- ・当協議会は、設立趣旨にあるとおり、国民に対する野菜の需給状況の周知を図る場であり、これまで3回にわたって開催してきた幹事会のように、価格が下がって需給調整を必要とする場面ばかりではなく、価格が高騰した際にも機敏に対応していくことが肝要と考える。
- ・その意味で、本日の会議は、最近の野菜についての色々な角度からの情報を関係者が共有する重要な場であると考えている。

《農林水産省から全国農業協同組合連合会に野菜の供給確保についての[協力要請文書（別添）](#)の手交》

・我々もこれから主要産地と情報共有・情報発信を進めてまいりたい。【全国農業協同組合連合会】

### （1） 最近の野菜の需給・価格の動向

（ア）事務局から、資料1-1により、21年産夏秋野菜の需給・価格の動向を説明。過去9年間の平均価格と8月8日時点の卸売価格とを比較すると、ばれいしょは265.5%。たまねぎは208.7%等、品目によっては2倍を超える水準となるなど、全般的に野菜の価格が高めで推移していると報告。一方、はくさいについては、7月下旬に実施した緊急出荷調整により落ち着いたと説明。

（イ）事務局から、資料1-2に基づき気象について説明。7月の気象の特徴として、北日本から西日本にかけての日照不足、多雨といったことが挙げられると説明。また、主な産地である北海道、青森県、岩手県、福島県、群馬県、長野県及び消費地である東京の5月～7月の気温、日照時間、降水量の動向について前年積算と対比しつつ説明。

（ウ）全農から、資料1-3により、21年産夏野菜の生産・出荷状況と今後の見通しについて説明。

(全般) 7月はだいたいの品目の産地で西から東或いは東から北海道へのバトンタッチの時期であり、その時期に特徴的な天候が続いた。また、出回り量が多く販売に苦戦した昨年と比べると、さらに数値的に特異なものとなった。

(果菜類) 主産地である東北の天候が悪く出荷が遅れ、価格に影響が出た。

今後の東北産の出荷見通しは、8月盆明けの天候次第となる。9月に始まる関東産の状況も、8月盆明けの天候推移が重要。

(ばれいしょ) 産地が西から東、東から北海道へリレーするにあたり、先行産地(長崎、静岡)は天候不順により小玉傾向で切り上がりも早かった。続く関東産も小玉傾向。天候不順によって収穫ができないこと等もあり、北海道産は出回りが計画に比べ遅れている。

今後の出荷見通しとしては、9月に北海道産が本格化するが今後の天候に左右されよう。

(たまねぎ) 天候不順によって佐賀、香川、兵庫とも平年より少なめの出荷となった。

今後の出荷見通しとしては、お盆をはさんだ8月、9月に北海道産が本格化。現在は収穫が遅れているが、今後の状況はお盆明けの作業による。

(レタス) 天候の影響を受けやすい品目であり、今後の天候推移に注意が必要。

(キャベツ) 雨の影響を受け難いものの、このまま天候不順が続けば今後の出荷に影響する懸念。

#### (エ) 質疑応答及び意見交換

・エルニーニョ現象が冬まで続くとなると、何に気をつければよいのか。やはり雨か?【学識経験者】

・エルニーニョについての予報はできないためあくまでも過去のデータを基にした傾向だが、9月~11月の傾向で西日本の雨は少なく、北日本、太平洋側で雨が多いとのことで、この辺りが心配される。【事務局】

・全農の資料における今後の見通しについて、コメントには不安要素があるが、出荷計画の数字を見るとそれほどでもないが。【学識経験者】

・この計画は6月に立てたものとのことなので、今の天候の影響等は盛り込まれていないのでは。【事務局】

・数字だけを見て必ずしも大丈夫だとは言えないということだろう。【学識経験者】

・資料1-1にあるたまねぎの高騰時発動基準価格についてももう少し説明してほしい。【全国消費者団体連絡会】

・(高騰時の対策をまとめた資料2の4ページに沿って説明)【農林水産省】

・これらの事業の対象は重要野菜だけである。【学識経験者】

#### (2) 野菜の供給確保に向けた取組について

(ア) 農林水産省から、資料2により、野菜の供給確保に向けた取組について説明。当日行われた農林水産大臣記者会見内容の具体化方策の説明や、会議の冒頭に生産局長名で生産出荷団体に対しての野菜の供給確保についての要請文を手交し、高値傾向の野菜の出荷促進の要請を行ったこと等について説明。

#### (イ) 質疑応答及び意見交換

・昨今の豪雨や地震、台風による影響として、物流への影響について説明があったが、産地

の被害状況については、各地から速報として情報が寄せられているのか。【日本生活協同組合連合会】

- ・ いろいろ被害状況がまとまるのか。災害査定が入れば災害状況が明らかになるはずなので、農林水産省には、情報が入ったらまた皆さんに公開してほしい。【事務局】
- ・ 一部の量販店で行われているような野菜の特売は続くのか？【学識経験者】
- ・ 続いても4～6日ぐらいのもので、現在は行っていない。こんなに値が上がるとは思っていなかったし、量の確保にも苦労している。【日本チェーンストア協会】
- ・ 先日、業者が大量に買っていったとのことで八百屋にたまねぎがなかった。消費者としては、買い占めのようなことがないようにしてほしい。【消費科学連合会】

### (3) はくさいの緊急出荷調整の実施状況

(ア) 全農より、資料3により、はくさいの緊急出荷調整の実施状況について説明。7月の緊急出荷調整により価格が回復したと報告。

#### (イ) 質疑応答及び意見交換

- ・ 有効利用0.06トンの中身を教えて欲しい。【食生活情報サービスセンター】
- ・ 松本市の学校給食に4ケース。【全農】
- ・ 並級野菜は相当出るのか？【学識経験者】
- ・ 平成16年の高騰時には相当出た。並級野菜の出荷は価格動向等見て進める必要がある。並級野菜とは、例えばきゅうりであれば曲がりきゅうり、ばれいしょやだいこんでは小ぶりのもの等を言う。【農林水産省】
- ・ 以前は出荷規格も厳しかった。【学識経験者】
- ・ 現在緩くはなっているが、価格安定事業の対象になるにはその規格に合っていないといけない。【農林水産省】
- ・ 通常出荷されない規格外品は生産量全体のうちどのくらいの割合か？【事務局】
- ・ 規格外品も計画生産しているうちの一部だが、出荷計画量は規格品のみと理解。【全国中央市場青果卸売協会】
- ・ 生産量と出荷量の乖離は約10%（少ない時）～15%（多いとき）くらいあり、おそらくこの幅の中に自家消費分や、“通常出荷されない野菜”が含まれる。天気が悪いときは規格外品が半分くらいあることも。【学識経験者】
- ・ （規格外品の発生率は）天候や生育状況、品目にもよる。また、「これなら買ってもいいかな」と思えるもの、「こんなものを店頭置くのか」という印象を持たれるもの等、規格外品にも程度が様々で、商品化できるものを選別する必要はある。最近は売り場担当者の方にも理解してもらいつつある。【全農】

最後に座長より、本日の会議は高騰時の開催ということで安値時とは違った新しい情報もあり、それらの議論を踏まえ、野菜の需給情報の周知や需給の安定に努めていくよう関係者の方々にも取組をお願いしたい旨の発言があり、閉会となった。